**デスティネーション・ムーン**

**MB&F + L’Epée 1839**

**宇宙空間は「単なる広がり」ではなく、想像に満ちた世界なのです!**

「現実は嫌なものだ！」1960年代、私たちはSFの世界でホバーボードに乗って空中を飛び、想像力を高揚させましたが、結局は地上で車輪の付いたホバリングしない機体に乗っています。私たちがSFを見て期待した3Dテレビ。これはエンジニアたちが実現しましたが、少し見るだけで具合が悪くなり外に出たくなります。月そしてさらに遠くへと連れて行ってくれるエレガントな卵型ロケットの登場するSFは、私たちの夢を満たしてくれるものですが、エンジニアたちが達成したロケットはと言えば、著しく実用的とはいえ、ストレートで無味乾燥な円筒形です。

時には想像力に任せた方がベスト。その法則は、MB&Fによるデスティネーション・ムーンで文字通り実行されました。1960年代のエキサイティングなSFロケット風8日巻き置時計にふさわしい技術を備えると同時に、私たちの創意でディテールを埋め尽くせるよう豊かな空間が広がっています。

MB&Fが構想し、スイスの置時計トップメーカーL’Epée 1839が創り上げたデスティネーション・ムーンは、子供が夢みる最も典型的な魚雷型ロケットです。より注意深く眺めてみると、そのミニマリストなフォルムは、信頼性に優れたものというよりむしろ感情をかき立てるものです。

時と分は、大きな直径のステンレススティール製ディスクに刻印された数字で表示されます。時間表示の視認性は申し分なく、壮観な垂直構造よりもむしろ時間に焦点を当てた開放型ムーブメントに視線が奪われるに違いありません。

デスティネーション・ムーンのために特別開発されたL’Epéeの8日巻きムーブメント構造は、リアルな宇宙船の基本設計に追随しています。ロケットの動力は、基部から供給されます。デスティネーション・ムーンの動力は、基部の大型巻上げリューズから供給されます。ロケットの管理と制御システムは、動力源の上方にあります。時間表示下方に正確性を管理する垂直緩急針、ムーブメント最上部に時間設定ノブを備えたデスティネーション・ムーンにも同じことが言えます。生命感あふれるテンプを備えた魅力的な緩急針は、ほとんど目に見えないミネラルガラスの小さなパネルで宇宙線（そして好奇心に満ちた人々の指先）から守られています。

子供の心をくすぐる玩具やファンタジーへの憧憬に加え、デスティネーション・ムーンのムーブメントに備わる水平円板は、Meccano（メカノ）の構成部品のように穴あき加工が施されています。軽く優美なオープンワーク構築にもかかわらず、デスティネーション・ムーンはライト級ではなく、4kg（9ポンド）の重さがあります。軌道から外れたりひっくり返ったりしないよう、頑丈な着陸用ポッドが支えているのです。

そして、そこにはニールがいます。この宇宙服を着たほほえましいフィギュアは、ソリッドシルバーととステンレススティールで鋳造されており、リューズとムーブメントを繋ぐはしごに磁気で取り付けられています。ニールは、デスティネーション・ムーンを別世界へと飛ばす宇宙飛行士ですが、マシンの中にフィギュアをいれることで幼い子供が体験するような不思議な感動を呼び起させるのです。

**デスティネーション・ムーンは、ブラック、グリーンそしてブルーのPVD加工、そしてパラジウム（シルバー）の4バージョンがあり、それぞれ50点ずつ限定発売されます。**

**デスティネーション・ムーン詳細**

**インスピレーション**

デスティネーション・ムーンは、L’Epée 1839 とMB&Fのコラボレーションから生まれました。L’EpéeムーブメントのデザイナーでありSFロケットファンのニコラ・ブランゲと共に練り上げた基本構想は、ムーブメントの特徴的な垂直構造のアイディアにもつながりました。情熱に突き動かされたブランゲは、週末ほぼ徹夜でムーブメントを設計しました。L’EpéeはMB&Fにこのムーブメントを中心に宇宙船が設計できないかと伝え、こうしてプロジェクトが立ち上がりました。

MB&Fの社内デザイナー、ステファノ・パンテロットが基本形状の案を出しましたが、当初はロケットの迫真性があまりに顕著で、何かしら魅惑的な部分に欠けていました。奇妙なことに、ロケットから外装を取り除くにつれて不思議な魅力が備わっていき、－穴あき加工を施したメカノ風のムーブメントプレートが助長したのでしょう－見る人の想像力を形作るフレームとして作用する技術面がより見えるようになりました。

デスティネーション・ムーンの真の魅力は宇宙空間にあります。私たちの頭上にある宇宙空間ではなく、何もない空間がデスティネーション・ムーンなのです。ロケットのボディ全体が覆われていれば、見る人は誰かの子供のロケットだと思うでしょう。しかしロケットをテーマにしたこの卓上置時計は、実際には大きな空間、穴あき加工を施したフレームであり、デスティネーション・ムーンを鑑賞する人それぞれの目に映る宇宙船は少しずつ異なるはずです。誰かのものではなく、幼児期に思い描いた自分のロケット。宇宙空間は「単なる広がり」ではなく、想像に満ちた世界なのです!

**制作**

MB&F設計のデスティネーション・ムーンは、スイス初の高級置時計メーカーL’Epée 1839が構築しました。8日ムーブメントの垂直構造は、デスティネーション・ムーンのために特別開発されましたが、MB&Fの最近発売したオロロジカルマシーンNo.7 Aquapod（アクアポッド）と顕著な類似点が見られます。ひとつは宇宙船に着想を得た卓上置時計、もうひとつはクラゲから着想を得た水中ウォッチで、双方とも同心円垂直構造を特徴とし、基部から動力を得ています。

デスティネーション・ムーンの最も注目すべき部分（最も重要な部分とも言えるでしょう）が、基部のはしごを上る小さなフィギュア、ニールです。最高級の純銀で創られ、ステンレススティール製ヘルメットと1960年代風宇宙服を身に着けたニールは、宇宙船のメカノ風オープンワークそして時計仕掛けの工学に、楽しい人間味を添えています。ニールはデスティネーション・ムーンの搭乗用はしごのどこにでも、磁気で取り付けることができます。宇宙空間への冒険に向かうために搭乗したり、あるいは月面探索のために降りてみたり。見る人それぞれの想像力に任せられるのです。

**時計仕掛け**

デスティネーション・ムーンの動力はその基部の大型リューズから発せられ、搭乗用はしごを介して主ゼンマイバレルへと送られます。美しい緩急針はより良く鑑賞できるように垂直に配され、ミネラルガラス板によって好奇心に満ちた人々の指先から保護します。

白いニュメラルを刻印した2枚のステンレススティール製ディスクがそれぞれ表示する時（上部）と分は、緩急針上方の流線形ダブル・エンドポインターで表示されます。時間は、ムーブメント最上部の中央ノブで調整します。

丁寧なポリッシュ加工を施された3点の着陸用ポッドの実際の重量が、デスティネーション・ムーン置時計の安定性を保ちます。

**デスティネーション・ムーン: 技術仕様**

**デスティネーション・ムーンは、ブラック、グリーンそしてブルーのPVD加工、そしてパラジウム（シルバー）の4バージョンがあり、それぞれ50点ずつ限定発売されます。**

**表示**

ステンレススティール製回転ディスクに、時および分インジケーターを刻印

**ロケット**

サイズ： 41.4 cm（高さ）x 23.3 cm（直径）

重さ： 4.0 kg

フレーム：サテン仕上げステンレススティール製

着陸用ポッド：パラジウムメッキ加工を施した真鍮、ブルー、グリーンおよびブラックバージョンにはPVDコーティング。

総部品数（ムーブメント含む）：237

**ニール（宇宙飛行士フィギュア）**

ポリッシュ仕上げソリッドシルバー、ステンレススティール製ヘルメット。搭乗用はしごに磁気で取り付け。

**ムーブメント**

L’Epée 1839自社設計・製造

多段式垂直構造

振動数： 2.5 Hz / 18,000 bph

パワーリザーブ： シングルバレル、8日間

ムーブメント構成部品： 164

石数： 17

ミネラルガラスで保護したインカブロック衝撃保護システム

素材：パラジウムメッキを施した真鍮、ステンレススティール、ニッケルメッキを施したステンレススティール

ムーブメント仕上げ：ポリッシュ仕上げ、ビードブラスト仕上げ、サテン仕上げ

巻上げ：ロケット基部のプロパルジョンホイール回転による手巻き

設定：インジケーションリング上方、ムーブメント最上部に時間設定ノブ

**MB&F－コンセプトラボの誕生**

2015年、MB&Fは10周年を迎えます。史上初のオロジカル・コンセプトラボが経験した豊かな10年です。MB&Fを一躍有名にした、かの有名なオロロジカル・マシンとレガシー・マシンを構成する11個のキャリバーが象徴する、極限の創造性の10年と言えます。

15年間高級時計ブランドのマネージメントに徹したマキシミリアン・ブッサーは、2005年にハリー・ウィンストンのマネージングディレクターを辞任し、MB&F（マキシミリアン・ブッサー＆フレンズ）を設立。MB&Fは、ブッサー氏が尊敬しコラボレーションを共に楽しむ才能あるオロロジカル職人を集め、先鋭的なコンセプトの腕時計デザインと小規模の製作を行う、アートとマイクロエンジニアリングのラボです。

2007年、MB&Fは初のオロロジカル・マシンHM1を発表。HM1の彫刻のような3次元ケースと美を追求して仕上げられたエンジン（ムーブメント）は、奇抜とも言えるその後の同社オロロジカル・マシンの基準となりました。HM2、HM3、HM4、HM5、HM6、HM7、HM8、そしてHMX。すべては時刻を告げるためだけのマシンではなく、自らが時を知るマシンなのです。

2011年にはMB&Fはラウンドケースのレガシー・マシン・コレクションを世に送り出しました。MB&Fの視点から言えばよりクラシカルなこのラインアップは、現代的な芸術作品に仕上げる上で、過去の偉大なオロロジカル革新者が生み出した複雑エンジンを新たに解釈し直し、19世紀の優れた時計製造技術を讃えています。LM1とLM2に続いて発表されたLM101は、完全自社開発したムーブメントを搭載している初のMB&Fマシンとなりました。2015年は完全一体型のパーペチュアルカレンダーが特徴の*レガシー・マシン・パーペチュアル*を発表。MB&Fは、現代的かつ非常に斬新なオロロジカル・マシンと、時計製造の歴史をインスピレーションの源とするレガシー・マシンを交互に発表しています。

MB&Fは、オロロジカル・マシンとレガシー・マシンの他にも、オルゴール製造を専門とする「リュージュ」とのコラボレーションによる宇宙時代を象徴したオルゴール（Music　Machines 1、2、3）や、「レペ1839」とのコラボレーションによる宇宙ステーションをイメージしたフォルムの独特な置時計（Starfleet Machine）、クモをモチーフにした時計 （Arachnophobia）、さらに3つのロボットクロック（Melchior、ShermanとBalthazar）などを製作しています。2016年にはMB&Fと「カランダッシュ」が共同で、アストログラフ（Astrograph）と名付けられた機械式のロケット型万年筆を制作しました。

またMB&Fの軌跡における、その革新的な本質を証明する受賞機会もありました。すべてを網羅することはできませんが、名高い「ジュネーブ時計グランプリ」においては4つものグランプリを獲得しています。2016年には*レガシー・マシン・パーペチュアルが「*ベストカレンダー ウォッチ賞」を受賞。2012年にはレガシー・マシンNo.1が「パブリック賞（オロロジーファンによる投票）」と「最優秀メンズウォッチ賞（プロの審査員による投票）」を受賞しました。また2010年には、MB&F のHM4サンダーボルトが「最優秀コンセプト＆デザインウォッチ賞」を受賞。さらに2015年には、HM6スペースパイレートが、国際的な「レッド

ドット・デザイン賞」において最高位の「レッドドット：ベスト・オブ・ザ・ベスト賞」を受賞しています。

**L’EPEE 1839 –スイス第一級の時計製造所**

L'Epéeは175年以上、置時計製造の最前線を歩んでいます。今日、高級置時計製造に特化したスイス唯一の専門メーカーとなっています。Auguste L’Epée(オーギュスト・レペ) がブザンソン近郊で1839年に創業したL'Epéeは当初、オルゴールと腕時計の構成部品製造に携わっていました。L’Epéeの顕著な特徴は、全ての部分が手作りであることです。

1850年以来、製造所は目覚まし時計、置時計、ミュージカルウォッチに特化したレギュレーターのメーカーとなり、「プラットフォーム」エスケープメント生産においてリーダーシップを発揮しました。1877年までに、年間24000点のプラットフォームエスケープメントを製造していました。同製造所は、アンチノッキング、オートスタートそしてコンスタントフォースエスケープメントなど特殊なエスケープメントの特許を多数保有する著名な専門メーカーであり、また現在世に知られている複数の腕時計メーカーへのエスケープメントのサプライヤーでもあります。L'Epéeは、国際展示会において数々の金賞を獲得しています。

20世紀には、L'Epéeは最高級旅行用携帯時計でその評判を高めましたが、多くの人にとってL'Epéeは影響力と権力を持った人が所有する時計であり、フランス政府関係者から上流階級ゲストへの贈与品としても選定されていました。 1976年にコンコルドが超音速航空機として商業就航した際には、L'Epéeの柱時計が客室の装備時計として選定され、乗客への時間の視覚的フィードバックに使われていました。 1994年には、L'Epéeはチャレンジ精神に突き動かされ、調整された振り子が付いた世界最大の時計Giant Regulator (ジャイアント・レギュレーター)を構築しました。 高さ2.2メートル、重さ1.2トン、機械式ムーブメントだけでも120キロの重さがあるこの時計製造には、2800人時の作業を要しました。

L'Epéeは現在、スイス、ジュラ山脈のドレモンに拠点を置いています。L’Epée1839は CEOのアルノー・ニコラス主導の下、洗練されたクラシックな旅行用時計、現代のデザインクロック（Le Duel）、およびアバンギャルドなミニマリスト時計（La Tour）ラインナップを含む、最高級置時計のコレクションを展開しました。 L’Epéeの時計は、レトログラード・セコンド、パワーリザーブインジケーター、万年カレンダー、トゥールビヨン、および打鈴機構を含むコンプリケーションを特徴としており、すべてが社内でデザイン・製造されています。 超長時間のパワーリザーブは、最高水準の仕上げと共にブランドのシグネチャーとなっています。